



さん



“蔵出し”最終章「島津さん 孤独のメモリー」 7月13日(月)スタート

「POP BY JUN」から選りすぐりをお届けする“蔵出し”企画の最終章。
今回はスタイリスト島津由行氏がその半生をかけて貯め込んだ逸品・珍品がお目見えする。
題して「島津さん 孤独のメモリー」

島津由行、1959年生まれ。

日本のファッション黎明期から今に至るまで「スタイリスト」という道を極めた「島津さん」だが、今回“蔵出し”される品々にまつわるお話をおうかがいしたところ、その長く、決して平坦ではなかったその道のりが語り始められた。

熊本での多感な青春期を経て、「東京へ行くならアメリカへ行くのも変わらんだろう(笑)」と初めて海を渡ったのが1974年。アメリカ見たさから、距離感も考えず、学校に行くのもやめ、夜の商売をかけ持ちして飛び出した、サンフランシスコからロサンゼルス、ハワイへの旅だったという。当時、頭の中はウッド・ストック以後の音楽やファッションシーンでいっぱい。島津さんが目にしたのは、ヒッピー末期の西海岸。「当時、アイビールックから西海岸ファッションに影響を受けていたものの、西海岸に着いてみると、みんながフレアパンツにタイダイのTシャツ、ひげルック。アイビースタイルではまったくない事に、雑誌にだまされたー!という感覚でした(笑)。まあ、今で言うブランディングだったんですね」。

その後、ビートルズを筆頭とする音楽に惹かれて向かったのが、ロックの聖地イギリス・ロンドン。'78年、折しもロンドンはパンクの渦中。そしてマーキーズ等のライブハウス、キングス・ロードが生き生きしていた時代だったという。そして、'81年「ロンドンに行く予定がヨーロッパや他の諸国も旅してみたい」と思い立って渡ったのがパリ。居心地がよかったというパリを拠点にして、ある時はギリシャからトルコへ、ある時は東欧スロバキア、ユーゴスラビアへオーロラを求めて北欧へ、またある時はスペインから船でアフリカに渡ってモロッコへ。陸と海を越える放浪は2年程続き、旅から戻ってからは、イッセイ ミヤケ、ヨウジヤマモト、ワールズエンド等といった錚々たるデザイナーのパリコレの裏方を始めるようになった。「この頃のショーは、時間が長く体数も多かったので準備が大変でした」。税関からの荷受け、フィッティング、スタイリストのフォローまで。パリコレのあらゆる仕事に関わり、ファッションの舞台裏からさまざまな発見をすることになる。「そこで初めてスタイリストという仕事があるのを知ったんです。当時、関わっていたのは女性服のコレクションです。それまでは自分が着るための服や、自分が聴くための音楽というのに夢中だったのに、この女性服という、女性に着せて成り立つという造形美を知ったんですね。あの時代にパリで見たものが、自分のキャリアを決定的なものにしたんです」。

そんな放浪とパリコレでのアルバイトの繰り返しだった島津さんは、その後、買い付けの仕事も始めることになる。古着、ヴィンテージ品の買い付けのためにアメリカのマーケットからロンドン、パリの蚤の市は毎週どこかしら覗いていたという。「古着なんかは手で生地を触って、何年代のものだってというのが大体わかってきたりしてね。プロの掘り師でした」。「暗い中、懐中電灯片手に蚤の市に行くわけです。孤独な作業ですよ、掘るというのは」。同時にクリエイティブなひらめきにはこの孤独に向き合う時間が大切だったとも断言する。

今回“蔵出し”されるのは、そんな紆余曲折の半生をかけて島津さんの身の回りに集まってきたものから、最近手に入れたあらゆるもの。洋服はもちろん、写真集、雑誌、ポスターから家具まで、思入れのある品々が並ぶとのこと。「完璧なコレクションなんかではないんですよ。でも、自分のところにあるより、今、若くてその時代を知らない世代に渡して使ってもらったほうが有意義でしょう」と思い切って手放すことにしたという、これらメモリーのかげらを前に、あなたは圧倒されるに違いない。

(聞き手・写真：梶野彰一)

会期：7月13日(月) (*初日のみオープン時間が18:00 ~となります。) — 7月26日(日)



HARD WORK Tシャツ

亡くなってしまったクリストファー・ネメスですが、この日付の1994年12月16日、彼のファッション・ショーをやったんです。彼と一緒にブランドもやっていたジュディ・ブレイムも来日してのショーでした。その時のスタッフTシャツになります。その後そのままのデザインでリイシューもされたみたいなのですが、これは当時のオリジナルです。



J.P. GAULTIERのシースルーのMA1ジャケット

80年代後半、ゴルチエのシースルーのMA1です。裏にはミッキーマウスがスプレーしてあるんですが、それは僕のオリジナルです。これは当時、POPEYEの表紙に使いました。ゴルチエとは彼が最初のメンズコレクションを発表する前に出会って、彼のそのショーではチェックのズートスーツを着てモデルとして歩いた思い出もありますね。



SAMARAS “ALBUM”

ルーカス・サマラスというアーティストの写真集です。アーティストというか変態なんですけど、彼はヌードのセルフポートレートをボラロイドで撮ってその上に無数にドットを描き込んでいくんですね。ライティングから全部自分ひとりで完結して、自分にしか向かっていない。孤独なんです。これこそ「孤独のメモリー」の象徴的な一冊かもしれないですね(笑)。



谷岡ヤスジ「ギャグトピア」

子どもの頃から谷岡ヤスジさんが大好きだったんでね。彼はとんちがあるし、天才だと思ってます。僕、ロックンロールはとんちだと思ってるんですよ。パンクだって、あのデザインだって全部とんちがあって成り立ってるんですよ。好きすぎてユニクロでコラボTまで作ってもらいました。大竹伸朗さんがそれを着てたのを知って嬉しかったですね。



JUNGLE FEVER ポスター

パリで通っていたディスコ、ライブハウスのPALACEというヴェニューがあったんです。当時、P.I.L.やクラウス・ノミのライブも観た記憶があります。そのPALACEが主催していたパーティで「JUNGLE FEVER」というのがあって、このポスターが毎回かっこよかったんです。告知のポスターで売り物ではないもんですから、かっこ良くてどうしても欲しくて、夜中にこっそり剥がして持って帰ってきたものです。



JUDY BLAME 指示書

某化粧品のコマーシャルの仕事のお話を頂いて、僕がスタイリングをする際に、ジュディに何かアクセサリを頼んでみようと思ったんです。その時、彼がロンドンから素材のサンプルを貼り付けて、どのように飾り付けるかなどの指示をイラストで描いてくれたものですね。貼ってあったサンプルはもうなくなってますが、彼のサインと、シグネチャーの王冠のスタンプが押してあります。

島津由行 (スタイリスト / ファッションディレクター)

1959年、熊本生まれ。10代で渡米、その後ヨーロッパに渡り、スタイリストとしてのキャリアをスタート。帰国後、マガジンハウス「anan」「POPEYE」のスタイリストとして活躍後、現在までに「Harper's BAZAAR」「GINZA」「SENSE」「BRUTUS」「花椿」等、数多くの雑誌でスタイリングディレクションを担当、広告媒体では多くのタレント、ミュージシャンの衣装制作も手掛ける。また、TVドラマ「黒革の手帖」「BG」「ヘッドハンター」等の作品にも参加し、2018年「紅白歌合戦」グランドオープニングでのスタイリング監修を担当。不定期でDJも行っている。

「POP BY JUN」ART BOOK FAIR “蔵出し”〈特設サイト〉

URL : <http://www.junonline.jp/special/popbyjun-kuradashi/>



上村真俊 “蔵出し”キュレーター

「bonjour records(ボンジュールレコード)」の立ち上げからバイヤー、ディレクター、DJ、プロデューサーとして約20年間活動。現在は、原宿にオープンしたアンドリュウ・リチャードソンが手掛けるブランド「リチャードソン」の日本でのブランディングなども手掛けている。

POP
BY
JUN

POP BY JUN @pop_by_jun https://www.instagram.com/pop_by_jun/

POP BY JUNの“POP”の由来はPlace(場所)+Occasion(機会)+Person(人)。「クリアファイル」のような汎用性に優れたミニマルな空間に、ジュングループの合言葉である“YOU ARE CULTURE.”というフィルターを通して毎回異なる魅力的なコンテンツをショートタームで展開。

【住所】〒150-8377 東京都渋谷区宇田川町15-1 渋谷PARCO 1F
【営業時間】11:00-21:00 【定休日】不定休